



神埼市立
千代田中学校

第 8 号 文責(校長 藤田 浩臣)

2023/11/7 発行

“ 千代田中だより ”

千代田中学校教育目標

夢と誇りを持ち 自ら学び行動できる 心身共に調和のとれた生徒の育成

<https://www.education.saga.jp/hp/chiyoda-j/> TEL 0952-44-2222



駅伝大会



男子は2チーム出した学校も含め12チームで争い、千代田中Aが4位、千代田中Bが10位という結果でした。

10月5日(木)神埼地区・三養基地区中学校駅伝大会が、吉野ヶ里歴史公園を舞台に開催されました。当日は朝から薄曇り空で絶好のコンディションでした。昼頃になると日差しも強くなり、また風も吹き始めましたが、選手の皆さんは最後まで自分と闘いながら、走り切ってくれました。



また、女子も9チーム中3位という見事な走りで男女とも11月10日に行われる県大会の出場権を勝ち取りました。

この大会では、記録以上に選手の皆さんは素晴らしい経験ができたと思います。そして、次の後輩につなげる確かな一歩を残してくれました。長い距離を走ることは、きつくつらいものです。それにいとわず自ら進んで参加し、チャレンジしてくれた選手の皆さんに拍手を送りたいと思います。

米づくりと人づくり

本校の職員に農業経験者がおられ、このような話をしていただきました。この方も何かの教育書で読まれたそうですが、その内容は子どもの「学力向上や人間形成」は「米づくり」と重なるところが多いということがあります。

田植えや稲刈りは夏や秋の風物詩として誰しも幾度となく目にしてきました。田植えの後にたんぼに満々と水を入れるのは、保温しないと根が発育しないためであり、併せて雑草の発生をおさえる効果もあります。あたくも、母親が愛情たっぷりに幼児をその手にうたくようでもあります。稲から穂が出ると、今度はたんぼからちょっと水を抜き、羊糞ぐらいの土の状態にして根腐れを防ぎます。水をたっぷりやり過ぎない。つまり親の溺愛(愛情過多)が、子どものわがままや耐性欠如につながるため、そうならないように気をつけることと似ています。さらに、夏も暑い盛りには、たんぼから水を完全に抜いてヒビが入るまで乾かします。このことで、根の活力が増し、根が強く張っていきます。少しばかりの不自由や不足によって、子どもにがまんする力やたくましさ、求める力(意欲)が身についていく姿と重なります。私たち大人は、なんでも与えすぎることがかえって裏目に出て、子どもをだめにしてしまうことに気づいています。そうして、もみに栄養をたっぷりため込み、稲穂が垂れてくる頃、まさに収穫の秋を迎えるのです。

このように芽吹くところから始まり、水田に根を張りすくすくと成長していく姿は子どもの成長そのものといってもよいでしょう。稲は夏になると何度か人為的な断水を経験し、ひからびた土地に根を張ることを覚えます。発根力です。水分を求め、地中に深く深く根を張り、自分自身を丈夫にしていくのです。子どもたちにも、稲同様に、得られる知識をどん欲に吸収し健やかに心身を育ててほしいと願います。きっと、子どもたちには、学習面において、あるいは部活動の面において、その他様々な場面において、逆境と呼べる苦しい時期が大なり小なりやってくるかもしれませんが、ピンチを乗り越える人としてのしなやかな強さを手に入れてほしいと思うのです。

最後に、「稲」は成長の集大成として実を付けていくこととなります。親や教師は、より多くの実りが得られることを願い、様々な支援をし、子どもたちの実力の結晶、結実を待つのです。

大変心に残る話をしていただきました。「米」という字を分解すると、「八十八」になり、それは「八十八ものたくさんの手間がかかって、ようやくお米は作られるのだ」とよく言われます。子どもを健やかに育むのにも手間がかかるのは当たり前で、親や教師は同じベクトルで、手抜きすることなく子どもの成長を見守っていきたくたいものです。そして、子ども自身にも、その成長の陰には、自分の努力のみならず多くの人の手助けがあることに気づく子どもたちであってほしいと願います。

この時期になると、千代田町のいたるところで黄金色の絨毯(じゅうたん)の上に無数のトンボが飛び交い、その羽が夕日に反射してキラキラと輝く幻想的な風景を見ることができます。「実るほど頭(こうべ)を垂れる稲穂かな」・・・どうか謙虚さ、感謝の心を手放すことのない子どもたちが育ちますように…

下村湖人先生生誕139年祭

私たちが住んでいる千代田町の偉人で「次郎物語」の作者である下村湖人先生の生誕祭が10月3日に行われ、本校の生徒が出品した感想画や感想文・スケッチが表彰を受けましたので、ここに紹介したいと思います。おめでとうございます。

☆「次郎物語」読書感想文

下村賞 最優秀賞
3年 坂井 和篤 (写真)

優秀賞
2年 末次 春備

3年 仁井まるみ



☆「次郎の家」スケッチ大会

下村賞 最優秀賞
3年 原口 絢夏 (写真)

優秀賞
2年 西村 美音

3年 寺田 章浩

1年 園田 敦己



☆「次郎物語」読書感想画

最優秀賞 2年 矢野 結乙
優良賞 1年 園田 敦己

菱華祭 (文化発表会)

今年の菱華祭は『彩華 (あざやか) ~どこにもない最高の菱華祭を~』をテーマに生徒会を中心として、創りあげてくれました。私は「どこにもない」という言葉に感銘を受け、保守的で今の現状をなかなか崩せない大人より、柔軟で何にでも恐れずチャレンジする生徒の若さをうらやましく思いました。この気持ちをいつまでも持ち続けてほしいと思います。



合唱コンクール



3年生は、さすが最上級生という男声と女声の迫力と重厚感のある大人のような合唱を聴かせてくれました。そして、今の心の中の気持ちを表す詩の内容を、素敵な声の響きに合わせて豊かに表現してくれました。2年生は、中堅学年らしい存在感のある情感あふれる合唱を、1年生は、若々しくはつらつとした素敵な歌声を聴かせてくれました。どのクラスも「曲そのものがもつ力」を精一杯表現しようと心一つにして頑張ってきたことが伝わってくる合唱でした。

金賞の学級はおめでとうございます！順位はつきましたが、合唱を創りあげてきた過程、その道のりが大切だと思います。

ぶつかりあい、励まし合いという関わりが今、どのクラス・学年においても強い絆をつくっているはずです。どのクラスも魂のこもった、心が洗われるような合唱を披露してくれました。私は、生徒のおかげで深い感動に包まれた至福の時を過ごすことができました。合唱コンクールの皆さんの歌声は、中学時代の友情と団結のあかしとして、生涯一人一人の心の中に響きわたり続けるものと信じています。



吹奏楽部

ただただ、「格好いい」というのが自分の一番の感想です。「あんなに楽器を自由に演奏でき、そこから自分を表現するなんて！なんてすばらしいのだろう！」と昔から思っていたのですが、今日の演奏でまた改めてそうした思いが沸き上がりました。「いつか自分も楽器を演奏してみたい」と思わせてくれた楽しい時間でした。ありがとうございました。

